

令和 4 年 6 月 22 日現在

機関番号：32672

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2021

課題番号：15K04090

研究課題名(和文) 保育職のキャリア形成と結婚・家族形成のライフコース経路とその促進・阻害要因

研究課題名(英文) Life course patterns of career development and marriage/family formation among child care workers and their social direction and social guidance.

研究代表者

若尾 良徳 (Wakao, Yoshinori)

日本体育大学・児童スポーツ教育学部・教授

研究者番号：70364908

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,700,000円

研究成果の概要(和文)：保育職は、早期離職が多く、キャリア形成と結婚・家族形成の両立ができないことが問題となっている。そこで、本研究では、保育職のキャリア形成と結婚・家族形成のライフコースのパターンを示し、それらに影響を与える要因を明らかにすることを目的とした。保育職就業経験者19名へのインタビューから、保育職のキャリア形成と結婚・家族形成のパターンを示し、保育職の継続を促進・阻害する影響する要因を明らかにした。また、保育現場の管理職4名へのインタビューから、管理職が保育職のキャリア形成、結婚・家族形成についてどのように考えて、どのような支援を行っているかを明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

これまでの保育職の離職に関する研究は、離職理由や1,2年以内での早期離職の問題を主に取り上げていた。本研究では、結婚・出産離職、結婚・出産後継続、結婚せず継続、結婚せず離職など、保育職のキャリア形成、家族形成の多様なパターンを取り上げて、それぞれのパターンにおける継続及び離職の要因を明らかにして、保育職のキャリア研究に新たに示唆を与えることができた。また、本研究は保育者が早期離職や結婚・出産退職に至る要因を明らかにした。これらの知見は保育職を継続するために求められるサポートや職場環境、制度の改善に示唆を与えることができ、保育者不足の解消に貢献することができる。

研究成果の概要(英文)：Childcare workers often leave the workforce early, and their difficulty in balancing career development with marriage and family formation has become a problem. Therefore, the purpose of this study aimed to show the life course patterns of career development and marriage/family formation in the child-care profession and to identify the factors that influence them. We conducted interviews with 19 individuals who had worked in the child-care profession, demonstrated patterns of career development and marriage/family formation among child care workers, and identified factors that promote or hinder continuity in the child care career. In addition, we interviewed four managers in the child-care field and identified how they think about the career development of child-care workers, marriage and family formation, and what kind of support they provide to these workers.

研究分野：心理学

キーワード：保育者 ライフコース 離職 TEM 結婚 出産

1. 研究開始当初の背景

(1) 保育者不足と保育職の早期離職

近年、待機児童の解消のため、保育所、認定こども園といった保育施設の拡充が図られている。保育施設の拡充を進めるにあたっては、保育者（保育士、幼稚園教諭、保育教諭）の人材不足が深刻な問題となっている。保育士の有効求人倍率をみると、平成23年1月は1.36倍、平成24年1月には1.51倍と、1倍台であったが、平成26年1月には2倍を超えて、平成30年度1月には3.64倍まで上昇している。保育者不足の背景には、保育職は離職率が高く、キャリア形成が困難であるという問題がある。賃金構造基本統計調査によると、2019年（令和元年）の平均勤続年数は、幼稚園教諭で8.2年（男性11.5年、女性8.0年）、保育士で7.8年（男性6.2年、女性7.9年）となっており、全職種の平均12.4年（男性13.8年、女性9.8年）と比べて短い。また、離職者の年齢段階別の割合をみると、幼稚園や幼保連携型認定こども園においては、退職者の6割以上が30歳未満であり、特に私立幼稚園においては7割を超えている（平成28年度学校教員統計調査）。

(2) 保育職のキャリア形成と結婚・家族形成との両立の困難さ

保育職の離職率を高めている要因に、結婚・出産による退職の慣習がある。結婚・出産を機に本人が退職を希望するに関わらず、退職を強要される慣習がしばしば残っている（原田, 1995）。また、保育職は待遇が悪く、激務であるため、出産後には継続が難しいという問題もある（厚生労働省「保育士の再就職支援に関する報告書」）。すなわち、保育職は、キャリア形成と結婚・家族形成の両立が難しく、仕事か結婚かというワーク・ライフ・バランスに大きな課題があるといえる。近年、結婚しない者、またはできない者が増加しており、結婚しないで働き続けるというライフコースも一般的になっている。女性の未婚率は、2020年には30代前半で38.5%、30代後半で26.2%にまで上昇している（国立社会保障人口問題研究所, 2013）。しかし、保育職においては、結婚・家族形成を選択しなくても、キャリア形成をつづけることが難しいケースも少なくない。保育現場には、一定の年齢に達すると退職することが当然とされる、いわゆる「肩たたき」の慣習が残っているからである。つまり、保育職は、キャリア形成がそもそもできないことも少なくない。

それに加えて、保育職の女性は、結婚相手を見つける機会が限られてくる。現在、結婚相手との出会いの場として「職場や仕事」、「学校」が依然として高い割合である（国立社会保障・人口問題研究所, 2011）。婚活が話題となり、結婚相手を見つけることが困難な時代になったと言われるが（山田・白河, 2008）、職場においても、学校においても男性と出会う機会が少ない保育職の女性は、出会いの場が限定されていると考えられる。すなわち、保育職においては、女性は、キャリア形成と結婚や家族形成の葛藤を抱えるだけでなく、キャリア形成も、結婚・家族形成も難しいといった課題を抱えていると考えられる。

さらに、保育職の男性の場合、キャリア形成と結婚・家族形成に女性とは異なる問題を抱えていると考えられる。保育職の男性は、就職そのものが女性に比べて不利であったり、給与等の問題から保育職を続けることに葛藤を抱く可能性がある。

2. 研究の目的

以上より、本研究では保育職のキャリア形成と結婚・家族形成のライフコースのパターンを示し、それらに影響を与える要因を明らかにすることを目的とする。

具体的には、保育職経験者、保育現場の管理職、養成校学生を対象に次の3つの研究を行う。
研究1：保育職経験者へのインタビューを通して、保育職のキャリア形成と結婚・家族形成に注目し、ライフコースの多様な経路を明らかにし、そのパターンを描くとともに、その経路選択に影響を与える促進要因、阻害要因を明らかにする。
研究2：保育現場の管理職へのインタビューを通して、保育現場の管理職における、保育職のキャリア形成、結婚・家族形成の意識や支援、働きかけについて調べる。
研究3：保育者養成課程の学生におけるキャリア形成と結婚・家族形成のライフコース展望が、在学期間を通じてどのように変化するか、またそれらが保育職の現実に関するイメージによって影響されているかを明らかにする。

3. 研究の方法

(1) 研究1：保育職経験者のキャリア形成と結婚・家族形成のライフコースのパターン

調査協力者 保育職就業経験者19名（Table 1）

調査方法 保育職志望から現在までのキャリア形成、結婚・家族形成について半構造化ライフコース・インタビューを実施した。インタビュー時間は1回あたり60分から120分で、原則として各調査協力者に2回のインタビューを実施した。1回目のインタビューから簡易なTEM図を作成し、2回目のインタビューで内容を確認するとともに、分岐点や経路、社会的ガイド、社会的方向付けについて、詳細をたずねた。

Table 1 調査協力者一覧

ID	性別	調査開始時の年代	保育職就業状況	婚姻状況	子どもの有無
A	女性	40代	離職後保育職に再就職	既婚	有
B	男性	30代	離職後保育職に再就職	既婚	有
C	女性	40代	離職後保育職に再就職	既婚	有
D	女性	30代	離職後保育職に再就職	既婚	有
E	女性	30代	離職後保育職に再就職	既婚	有
F	女性	20代	離職後保育職に再就職	既婚	有
G	女性	50代	離職後保育職に再就職	既婚	有
H	女性	20代	保育職を退職	既婚	無
I	女性	20代	離職後保育職に再就職	既婚	無
J	女性	20代	離職後保育職に再就職	既婚	無
K	女性	20代	保育職継続	既婚	無
L	女性	20代	保育職継続	未婚	無
M	女性	20代	保育職継続	未婚	無
N	女性	30代	保育職継続	未婚	無
O	女性	40代	保育職継続	既婚	有
P	女性	30代	保育職継続	未婚	無
Q	男性	20代	保育職継続	未婚	無
R	女性	20代	保育職継続	未婚	無
S	女性	20代	保育職継続	未婚	無

(2) 研究2：保育現場の管理職の意識

調査協力者 幼稚園・認定こども園の園長4名（公立2名、私立2名）

調査方法 保育職を継続していくために園長として必要な支援についての考え方について、半構造化インタビューを実施した。インタビューの時間は1回30分程度であった。質問内容は、「現場の保育者が保育の仕事長く続けていけるために、園長として心がけていることや、働きかけていること」「結婚・出産後に続けていくために必要なサポート」などであった。

(3) 研究3：養成校学生のライフコース展望

研究期間中に研究代表者の所属機関の異動が複数回あったため、縦断的なデータを取得することが困難となったため、ここでは報告しない。

4. 研究成果

(1) 研究1：保育職のライフコースのパターン

ここでは、インタビューから得られたライフコースのパターンと、その背景や影響を及ぼした要因を示す。

A. 結婚・出産退職慣習パターン

結婚や出産を機に保育職を離職したパターンとして、本人は続けたかったが、結婚したら、あるいは出産したら辞めることが当然とされていた「結婚・出産退職慣習パターン」(A)がみられた。「なんとなくそういう空気だったし、結婚して子どもも、産休育休取ってやっている人は誰もいなかった」というように、当時は結婚や出産で退職するのが当然とされており、結婚・出産後も続けるという選択肢がなかったようである。

B. 結婚・出産希望退職パターン

結婚や出産を機に保育職を離職したパターンとして、自らが望んで退職した「結婚・出産希望退職パターン」(C, D, E, F, G)がみられた。「なんで、子どもを育てながら働けなさいいけないのかって、って思う」というように、結婚・出産後は専業主婦になることを望んでいるケース、「仕事を辞めたかったのが、結婚以外では幼稚園とか辞めれる雰囲気ではないというもあって、これがチャンスかなと思って辞めました。」というように辞めることを言い出せないが、結婚が理由であれば辞めやすいと考えたケース、「辞めたかったわけではない」が結婚により引越しをすることになり辞めざるを得なかったというように転居による離職のケースなどがみられた。

C. 介護退職パターン

家族の介護を優先するために離職し、より柔軟に働ける職場に転職した「介護退職パターン」がみられた(1)。祖母の介護が必要となり、介護を最優先にしたいためフルタイムでの仕事は難しいと考えたケースがあった。

D. 早期離職パターン

新卒で就職した1,2年で辞めた「早期離職パターン」(H, J)である。このパターンでは、「相談できなかった。相談しても返ってこないし。」といったサポートのなさや、「寝るのが本当に3時間とか、ひどいとき2時間とかで」というように仕事量が多く、持ち帰りの仕事を多数かかえていたこと、「1年目組んだ先生とも馬が合わなかった」「一緒に組んでた先生に(中略)八つ当

たりを結構受けてた」といった人間関係の問題などの課題が語られていた。

E. 結婚後継続のパターン

結婚後も保育職を継続している「結婚後継続のパターン」(K)である。「所得がお互いそんな高くないから、将来の子どもを産んだこととか考えると」といったように経済的な理由、「子どもが産まれても、やっぱり産休があるので、育休と」というように産休・育休をとって復帰するのが当たり前の職場環境、といったことが語られた。

F. 未婚継続パターン

結婚しないで続けている「未婚継続パターン」(L, M, N, P)である。積極的に保育職を続けたいと考えているケース、続けたいというよりも辞める理由がないために続けているケース、公立保育士であるため待遇がよくその立場を手放したくないという理由で続けているケースなどがみられた。また、主任などのミドルリーダーの立場になり、やり甲斐を感じて続けているケースもみられた。

G. 男性保育者(B, Q)

男性保育者においては、結婚後は経済的に家族を支えるべきという男性役割のため、給与の低い保育職を続けていくべきかを葛藤する語りがみられた。

(2) 研究2：保育現場の管理職の意識

研究2：園長インタビューから

保育職を継続していくために必要な支援について語られた内容を分類した(Table 2)。その結果、勤務時間短縮や休日確保、行事や会議の見直しなど業務負担を減らすための支援や、給与の改善のように、就労環境の改善の必要性について園長が意識していることが示された。また、育休復帰後の環境作りや新採教員の負担への配慮など、キャリアステージや状況に応じた支援も必要であると考えられていた。

保育の楽しさを共有する雰囲気作りや保育実践に自信が持てるような支援を、園長が意識的に行っていることが明らかになった。保育職を続けていくためには、就労環境だけでなく、保育の楽しさややりがいを感じられることや、保育者として力がついたという手応えを持てることが重要であると考えられていた。さらに、キャリアや将来設計について考えるような働きかけも必要と考えられていた。

Table 2 保育職を継続していくために必要な支援についての考え方

分類	内容
勤務時間の短縮	超過勤務にならないような体制作りや配慮。
休日の確保	有給休暇の確保や、子どもが病気の際に休めるなどの配慮。
行事の見直し	業務負担を減らすために行事の見直しや削減。
会議時間の短縮	業務時間を減らすために園内のミーティングの時間を短縮。
給与改善	自立して生活できるように給与改善。
育休復帰後の環境作り	育休復帰後に働きやすいような雰囲気やバックアップ体制の構築。
新採教員の負担への配慮	新採教員に担任を持たせないなど、業務負担への配慮。
保育の楽しさを共有する雰囲気作り	保育者同士で保育の楽しさを共有できるような雰囲気づくり。
保育実践に自信が持てるような支援	保育実践を褒めるなど、保育実践に自信が持てるような言葉かけや援助。
キャリアについて考える機会	キャリアや将来設計について考えることを促す。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 若尾良徳・池谷美衣子	4. 巻 3
2. 論文標題 現職保育者における保育継続希望と保育者効力感および結婚後の就業継続の困難感との関連	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 保育教諭養成課程研究	6. 最初と最後の頁 3-15
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 若尾良徳	4. 巻 2
2. 論文標題 保育職における結婚および結婚後の保育職継続のための困難と求められる支援	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 保育教諭養成課程研究	6. 最初と最後の頁 43-54
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計7件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 若尾良徳
2. 発表標題 保育職継続のために管理職に求められる支援 - 幼稚園長、認定こども園長へのインタビュー調査から
3. 学会等名 第4回日本保育者養成教育学会研究大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Yoshinori Wakao, Eiji Tsuchikura, Mieko Ikegaya
2. 発表標題 Factors of long work-hours among Japanese Early Childhood Education and Care workers.
3. 学会等名 The 30th EECERA Conference (国際学会)
4. 発表年 2020年～2021年

1. 発表者名 若尾良徳・土倉英志・香曾我部琢・宮里暁美
2. 発表標題 保育者が抱える困難と望まれるサポートを考える 保育者、養成校教員、研究者の対話を目指して
3. 学会等名 日本質的心理学会 研究交流委員会・保育教諭養成課程研究会合同シンポジウム
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 香曾我部琢・藤田清澄・伊藤恵里子・若尾良徳・諏訪きぬ・榊原良太
2. 発表標題 保育者の就活と転活における経験プロセス：キャリア形成における感情制御に焦点を当てて
3. 学会等名 日本発達心理学会第29回大会発表
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 亀井美弥子・若尾良徳・小野寺涼子・土倉英志
2. 発表標題 対人援助職のキャリア発達と学び
3. 学会等名 日本発達心理学会第29回大会発表
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 若尾良徳
2. 発表標題 保育者のライフコース-保育職継続のための促進要因と阻害要因-
3. 学会等名 日本保育学会第70回大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 若尾良徳
2. 発表標題 保育職における結婚の困難
3. 学会等名 保育教諭養成課程研究会第3回研究大会
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分担者	池谷 美衣子 (Ikegaya Mieko) (00610247)	東海大学・スチューデントアチーブメントセンター・准教授 (32644)	
研究 分担者	土倉 英志 (Tsuchikura Eiji) (00614637)	法政大学・社会学部・准教授 (32675)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------